

**Q 3**

CT検査やX線検査では、どのくらいのX線を受けますか？からだへの影響が心配です。

**A 3**

表1)は、CT検査の際、検査を行った部位での各臓器が受ける平均線量(mGy)を示しており、表2)では、X線撮影の際に受ける平均線量を示しています。

からだへ影響は、影響が出ると言われている線量『しきい線量』(表3)を超えた場合ようやく発生します。通常の診療で受けるX線の量(表1や表2)は、『しきい線量』(表3)と比較するとはるかに少ない量であり、からだへの影響を心配する必要はありません。

表1)CT検査における主な吸収線量 [mGy]

	水晶体	甲状腺	乳腺	子宮	卵巣	精巣
頭部CT	50	1.9	0.03	...	...	...
胸部CT	0.14	2.3	21	0.06	0.08	...
腹部CT	...	0.05	0.72	8	8	0.7
骨盤部CT	...	...	0.03	26	23	1.7

注) ... 無視できるほど少ない

表2)主なX線撮影とその平均皮膚表面線量 [mGy]

検査部位	方向	線量
頭部	正面	1.5
胸部	正面	0.07
	側面	0.25
腹部	正面	2.6
頸椎	正面	0.4
胸椎	正面	2.3
	側面	2.5
腰椎	正面	1.7
	側面	5.6
股関節	正面	0.85
大腿骨	正面	1.1
膝関節	正面	0.18

表3)感受性が高い組織のしきい線量 [mGy]

組織	影響	急性被ばく線量
精巣	一時的不妊	150
	永久不妊	3500-6000
卵巣	一時的不妊	650-1500
	永久不妊	2500-6000
脊髄	造血機能低下	500
水晶体	水晶体の混濁	500-2000
	白内障	5000
胎児	胎児奇形	100
	重度精神発達遅滞	5000

**最後に・・・**

CT検査をはじめとしたX線検査は、病気を見つけるためには必要不可欠な検査です。

放射線による影響を心配するあまりに、検査をお受けにならないことは、患者さまにとって大きな損害となる場合があります。

私たちが使用する放射線の量は、からだに影響が出ると言われている量よりもはるかに少ない量を使用していますので、からだへの影響を心配する必要はありません。どうぞ安心して検査をお受けください。